



# 学校だより

金沢市立森本小学校

令和8年2月25日

校長 坂井 文代

校訓：強き 正しき 温かき



梅が香にのっと日の出る山路かな 松尾芭蕉

## ◆旅立ちと感謝の月に

春一番が吹き、やわらかな春の光が感じられる季節となりました。校庭の木々も少しずつ芽吹き始め、子どもたちの一年間の歩みを祝福しているかのようです。早いもので、今年度も締めくくりの3月を迎えました。

6年生は、いよいよ卒業の日を迎えます。この一年、学校のリーダーとして委員会活動や行事など、さまざまな場面で力を発揮してくれました。皆さんが築いてくれた伝統は、きっと在校生へと受け継がれていくことでしょう。中学校という新たなステージでも、自分らしさを大切に、大きく羽ばたいてくれると信じています。

1～5年生も、この一年で心も体も大きく成長しました。できなかったことができるようになった喜び、友達と協力したりチャレンジしたりすることの大切さを学んだ日々の積み重ねが確かな力となっています。6年生を送る会でもその力がしっかりと発揮されていました。今年1年間学んだことを振り返り、新しい学年につなげてほしいと思います。

## ◆4月からの児童数・学級数について

※2月25日現在

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	あおぞら	そよかぜ	合計
児童数	78	82	87	94	83	89	10	3	526
学級数	3	3	3	3	3	3	2	1	21

令和8年度の児童数・学級数は2/25現在、上記のようになっております。転出予定がある場合は、すぐにお知らせください。

## ◆町別児童会&集団下校 3月19日(木) 13:35下校開始予定

6年生が卒業し、新しく集団登校のリーダーになる児童もいます。メンバーや安全な集団登校の仕方について確認するために町別児童会を行います。集団下校の訓練も併せて行いますので、自宅以外の場所(学童や祖父母宅など)に帰る場合は、お子さんに伝えていただくとともに担任にも必ずお知らせください。

## 【集団登校の意義について】

集団登校や徒歩での登下校は小学生にとってメリットがたくさんあります。本校においては、それぞれの地区委員の方が集団登校のお世話をしてくださっており、子どもたちの安全にご協力いただいています。ありがとうございます。保護者の皆さまには集団登校の意義を確認し、今後ともご協力いただきますようお願いいたします。

(けがなど個別の事情がある場合はその限りではありません。)

## 集団登校のメリット

- ① 安全確保
  - ・ 子どもが一人で登校するよりも交通事故や不審者被害のリスクが低い
  - ・ 上級生や保護者、地域の見守りが機能しやすく、災害やトラブル時に助け合える
- ② 社会性の育成
  - ・ 異学年での関わりを通じて思いやりや責任感を学ぶ
  - ・ 上級生が下級生をサポートすることでリーダーシップが育つ
  - ・ 集団行動のルールを身につける
- ③ 生活習慣の形成
  - ・ 決まった時間に集合することで時間管理の意識が育つ
  - ・ 規則正しい生活リズムを作る助けになる
- ④ 地域とのつながり
  - ・ 地域の方とのあいさつや交流の機会になる
  - ・ 地域全体で子どもを育てる意識の醸成につながる
- ⑤ 心理的安心感
  - ・ 特に低学年にとって「みんなで行く」という安心感が大きい



## 徒歩通学のメリット

- ① 体力・健康の向上
  - ・ 毎日の歩行が基礎体力づくりにつながる
  - ・ 心肺機能の向上や肥満予防に効果
  - ・ 朝日を浴びることで生活リズムが整う
- ② 自立心・判断力の育成
  - ・ 交通状況を見て判断する力が身につく
  - ・ 自分で時間配分を考える習慣がつく
  - ・ 危険予測能力が高まる
- ③ 地域理解の深化
  - ・ 通学路の季節の変化に気づく
  - ・ 地域の人と自然なあいさつや交流が生まれ、「自分のまち」への愛着が育つ
- ④ 心の安定・リフレッシュ効果
  - ・ 歩くことで気持ちが落ち着き、集中力が高まる
  - ・ 友達との会話がつながりをつくる

## ◆学校運営協議会より

1月28日に行われた第3回「学校運営協議会」では、次のような意見が出されました。

・DRCの具体は何か。

→Dはデジタル。端末の操作を学ぶのではなく、端末を使って学習を行う。Rはリーディング。読解を大事にした授業を行う。Cはコミュニケーション。クラスの子同士等の交流を大事にした学び。今年度から新金沢型学習スタイルというのが始まり、このDCRを大事にした学習を行っている。

・ここタンを活用する際に、いつでも何でも話ができるような雰囲気をつくってほしい。ぐんぐんタイムによる基礎的な学習が成果に出てきているのはよいことだ。

・自分が現役の時は、ぐんぐんテストのようなテストで合格者は、黒板に名前を書いていた。子どもの励みになった。なかなか合格できない子は、ハードルを低くする。がんばればできるようにしてあげた。

・中学年の下校時のあいさつが増えた。新興住宅地の子もあいさつをするようになった。

・分数の計算ができない大学生が話題になったことがあったが、小学生で身に付けなければならないことは、小学生の内に身に着けさせてほしい。

→中・高学年でも九九が身につけていないという教員の声から、どこまでできているのかを一人一人調べ、できていない児童には個別に対応しながら定着させるようにした。

・できないことができるようにさせる時は、できた喜びを感じさせることが大切である。

・(九九等)基本的なことは、家庭の協力が要だ。

→ぐんぐんテストは、練習プリントを「やりきる」ことを目指して今行っている。

・ぐんぐんプリントはやりがいがあるのではないか。

→若い教員の意識が変わった。やりきることができるように声をかけたり工夫をしたりするようになった。学力調査の結果が向上しているなど、成果が見えてきている。

・教員の勤務時間の削減は、どうしてできたか。

→DX化、繁忙期の授業時間の短縮等が功を奏している。学校でできることは限られているが、工夫し続けている。

・(大雪や感染症等による)臨時休業で削減した授業時間は補充するのか。

→年間の授業時数は余裕を持たせてあるので、(現状では)補充する予定はない。

今回の学校運営協議会では、主に学力に関する話題が中心となりました。今年度取り組んできたぐんぐんなど基礎・基本の定着を図る取組については、継続を求めるとご意見が多かったです。本校の教育活動について、貴重なご意見をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。